

様式 2-2
教育課程研究指定校事業実施計画書（平成 29 年度）
— 研究課題 1 高等学校 —

【継続】 H. 28 ~ H. 29

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

(公立) ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学 校 名	ほっかいどうだてみどりがおかこうとうがっこう 北海道伊達緑丘高等学校	ふりがな 校 長 氏 名	きちせ けんさく 吉瀬 献策
所 在 地	〒059-0273 北海道伊達市南稀府町 180 番地 4 電話/FAX 0142-24-3021 E-mail datemidorigaoka@hokkaido-c.ed.jp		
設置する 課 程 (H29.4.1 現在)	全日制課程	(H29.4.1 現在) 教員数 31名	
生 徒 数 (H29.4.1 現在)		[調査研究にかかわる教科等の教員数]	
学 科 名	1 年	2 年	3 年
	4 年	計	
普通科	131	135	161
特記事項	427		
	5名		

2 研究主題等

教科等名	地理歴史	教科課題番号等	1
学校にお ける研究 主題	地理歴史科（世界史・日本史・地理）の科目相互の連携を図った授業実践の研究 【研究仮説】地理歴史科における科目相互の連携を図り、社会的事象の意味や意義、概念等を 関連付けて総合的に捉えさせることで、地理歴史についての学習意欲や学力をより向上させる ことができるのではないか。		

3 平成 28 年度の成果と課題

<p>科目相互の連携を図った授業実践（主として「世界史 A」における日本史・地理との関連）を継続的に実施することで、地理歴史の学習意義についての理解が深まった。また、課題解決プロセスに基づく主体的・対話的で深い学びや言語活動の充実を図ることで、生徒が能動的に学習活動に取り組むようになったほか、学習意欲も高まる傾向が認められた。</p> <p>一方で、とくに思考力・判断力・表現力が求められる学習活動（授業スタイル）に対してやや苦手意識を感じている生徒もおり、生徒の思考を促す問いの工夫や、成就感や達成感を味わわせるための評価の工夫について、さらに教材・授業開発とその検証が必要である。</p>	
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

4 平成 29 年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

<p>《科目相互の連携を図った歴史的・地理的な見方や考え方の育成》</p> <p>○授業実践の研究（主として 1 年「世界史 A」、2 年「日本史 A」「地理 A」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「単元の指導と評価」（単元ごとの「問い」の設定）の計画・実施において工夫・改善を図る。 ・主体的・対話的で深い学びや言語活動の充実を通じて、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 <p>○地域の教育資源を活用した体験的な学習活動、異校種との連携・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北黄金貝塚を活用した体験学習（1 年「世界史 A」） ・伊達市開拓記念館を活用した体験学習（2 年「日本史 A」「地理 A」） ・本校生徒が講師（教師役）となった地域の小・中学校における児童・生徒への地理歴史授業 	
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(2) 研究計画

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等	
前期	4月	○授業ガイダンス及びアンケートの実施 ・世界史A…世界史へのいざない ・日本史A…私たちの時代と歴史 ○関係諸機関との連絡調整	・地理歴史への関心を高め、学ぶ意義について理解させるとともに生徒の実態を把握することができる。 ・授業公開や授業アンケートにより、生徒の実態把握や効果的な授業改善・学習評価の方法等について情報共有を図ることができる。 ・体験的な学習や主体的・協働的な学習に取り組むことで、歴史的・地理的な見方や考え方を育成することができる。
	6月	○前期「授業・学習アンケート」の実施（前期中間考査後） ・結果のまとめと分析	
	7月	○地域の教育関係者等に向けた授業公開 ・授業後の研究協議の実施 ・校内研修の実施	
	9月	○先進校視察訪問 ○国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」に伴う研究協議会 ・授業公開、調査官による講演、研究協議等 ○北黄金貝塚を活用した体験学習（1年） ・伊達市教育委員会、伊達市噴火湾文化研究所との連携 ・学習成果の発表 ○研究成果の公開（学校ホームページ等）	
後期	10月	○伊達市開拓記念館を活用した体験学習（2年） ・伊達市教育委員会、大学との連携 ・学習成果の発表	・地域の教育資源を活用することにより、学習意欲を高めるとともに、郷土への愛着を持たせ、歴史的・地理的な見方や考え方を育成することができる。 ・生徒が講師を務め、小・中学生に地理歴史学習を実施することにより、歴史的・地理的な見方や考え方を踏まえた思考力や表現力、プレゼンテーション能力等を向上させることができる。
	11月	○本校「公開授業週間」における授業公開 ・保護者、地域の教育関係者等への授業公開 ・参観者へのアンケートの実施	
	12月	○後期「授業・学習アンケート」の実施（後期中間考査後） ・結果のまとめと分析 ○生徒が講師となった地域の小・中学校における児童・生徒への地理歴史授業	
	1月	○授業実践成果のまとめ（研究紀要の作成等）	
	3月	○研究成果の公開（学校ホームページ等）	

5 研究のまとめの見通し

<p>【期待される成果】</p> <p>○科目相互の連携を図ることで、歴史的・地理的な見方や考え方を身に付けさせるとともに、地理歴史を学ぶことの意義について理解させることができる。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びや言語活動の充実、地域の教育資源を活用した体験学習などを通して、知識を活用して自ら問題を発見し、他者と協働して課題解決を図るための資質・能力について育成することができる。</p> <p>○研究・取組内容を積極的に発信することで、校内外にその成果を普及することができる。</p> <p>【研究成果の検証方法】</p> <p>○北海道高等学校学習状況調査等による学習意欲や学習時間などについての結果の検証</p> <p>○年2回実施する「授業・学習アンケート」に基づく検証</p> <p>○公開授業及び研究協議会の実施による外部評価に基づく検証</p> <p>○評価問題の結果の分析による検証</p>
